

## 第5段階：イエスの異邦人地域への撤退

### A. イエスの最初の北方への旅、ティルスとシドンへの旅、そして異邦人のデカポリスへの帰還

デイリー・ジーザス・ニュース # 121

ティルスの異邦人女性の「偉大な信仰」に応える  
マルコ7.24-30（並行テキスト：マタイ15.21-28）

24イエスはそこを去って、ティルスの地方に行かれた。そして、ある家に入ったが、誰にも知られなくなかった。しかし、ご自分の存在を秘密にしておくことはできなかった。25イエスが家に入るとすぐに、その地方のカナン人の女は、汚れた霊に取り憑かれた幼い娘がイエスのことを聞き、イエスの足元にひれ伏して叫びました。

「主よ、ダビデの子よ、私を憐れんでください。娘が悪魔にひどく悩まされています。」

25その女はシリア・フェニキア生まれのギリシャ人で、娘から悪霊を追い出してくださいとイエスに懇願し続けました。しかし、イエスは一言もお答えにならなかった。そこで弟子たちが近寄ってきて、こう願った。「どうか、この女を解放してください。叫びながら追いかけています。」

26 イエスは答えられた。 *「わたしはイスラエルの家の失われた羊のところに遣わされたのです。」*

女性はイエスの前にひざまずいて、「主よ、どうか私を助けてください」と言いました。

27 イエスは彼女に答えて言われた、 *「まず子供たちに、食べたいだけ食べさせなさい。子供たちのパンを取って小犬に投げてやるのはよくないからです。」*

28彼女は答えた。「主よ。」「テーブルの下でさえ、子供たちが落としたパンくずを食べる。」

29するとイエスは彼女に答えられた。 <sup>MT</sup> *「婦人よ、あなたの信仰は偉大です。あなたの望みどおりになるように命じます。」* <sup>M</sup>この返事の *おかげで、あなたは去ることが出来ます。悪魔はあなたの娘から去りました。」*

30 <sup>MT</sup>娘はその時から癒されました。 <sup>M</sup>家に帰ってみると、子供がベッドに横たわっていて、悪霊は出て行ってしまいました。

=====

注: 私たちは「混合テキスト」の原典福音書を次のように上付き文字で識別します: マタイ = <sup>MT</sup>、マルコ = <sup>M</sup>、ルーク = <sup>L</sup>、ジョン = <sup>J</sup>、使徒行伝 = <sup>A</sup>。この「上付きID」は引用文の冒頭に挿入され、別の上付き文字が現れるまでその聖書書を識別します。また、**イエスの言葉は赤のイタリック体で表記されます**。旧約聖書からの引用は大文字で表記されます。

コンテキストダイジェスト	
位置	ティルス、ガリラヤの北、フェニキア地方
タイムライン	4月（26月）

## 第5段階：イエスの異邦人地域への撤退

### A. イエスの最初の北方への旅、ティルスとシドンへの旅、そして異邦人のデカポリスへの帰還

イエスの生涯の背景	第5段階：イエスの異邦人地域への撤退
	A. イエスの最初の北方への旅、ティルスとシドンへ そして異邦人デカポリスに戻る
タイトル	ティルスの異邦人女性の「偉大な信仰」に応える

コメント：

今日の朗読は、イエスの宣教におけるもう一つの大きな転換期を象徴しています。イエスが公の宣教を始めてから2年以上が経ちました。最初の6ヶ月間はユダヤ地方で活動の中心を置き、その後ガリラヤへと移り、そこでさらに18ヶ月間宣教活動を行いました。そこでイエスは十二使徒を召し、任命し、多くの人々が離反する中でもイエスに忠実に従い続けた数百人の熱心な弟子を集めました。パリサイ人たちはあらゆる手段を尽くしてイエスを徹底的に拒絶し、庶民さえもパリサイ人の態度に影響されていました。

イエスの宣教活動の最後の年は、反対勢力の増大によって特徴づけられ、エルサレムでの十字架刑によって、イエスのメシアとしての立場が最終的に拒絶されるに至りました。そのため、イエスは宣教活動の次の6ヶ月間、二つのことに専念されました。

(1) イエスはガリラヤを離れ、北と東の異邦人地域でほとんどの時間を過ごしました。ガリラヤの塵を足から払い落とし、先へ進む時が来たのです。

ヨシユアの宣教活動における最も有名で重要な出来事のいくつかは、これらの異邦人の地域で起こりました。これらの土地はもともと神からアブラハムに約束されたもので、十二部族のうち5部族がヨシユアの治世下に定住したことでユダヤ人の領土となりました。ヨシユアの死後約400年後、紀元前1000年頃、これらの土地を統一的に支配下に置いたのは、偉大なダビデ王でした。

エシボアム王の治世下で王国が分割された際、これらの地域は「イスラエル」、すなわち北王国の一部となりました。この王国は紀元前720年にアッシリアによって滅ぼされましたが、イスラエル系の人々はこの地域に住み続けました。ですから、イエスがこれらの地域に退かれた時、彼は長年異邦人の領土にいたことになりましたが、同時に、かつて神との契約関係を含む霊的な歴史も持っていたのです。

(2) ガリラヤから退いておられたこの期間、イエスは弟子たちを教え、訓練することに多くの時間を費やされました。この期間におけるイエスの出来事や教えのほとんどは、十字架、教会、祈り、そして奉仕型リーダーシップに関する基礎的な教えを含め、弟子としての生き方にとって非常に重要であったことが分かります。イエスは、この退いておられた期間、十二使徒の訓練を最優先事項とされました。

福音書には、4月から9月までの約6ヶ月間の「退去」期間に起こった出来事が13件しか記録されていませんが、それらは非常に重要な意味を持っています。今日の朗読は、イエスの21番目の奇跡について記されており、イエスの宣教活動において、イエスが「深い信仰」を持つ人を称賛したわずか2回のうちの1回を取り上げています。どちらの人も異邦人でした。

## 第5段階：イエスの異邦人地域への撤退

### A. イエスの最初の北方への旅、ティルスとシドンへの旅、そして異邦人のデカポリスへの帰還

一人目はローマの百人隊長（DJN #78、ルカ7:1-10）、そして二人目はギリシャ系シロ・フェニキア人女性でした。二人は実に対照的です。彼は裕福で、彼女は貧しかったのです。彼は神を求める人で、会堂の礼拝に忠実に参加し、会堂建設にも多額の寄付をしました。彼女は真の礼拝や聖書の知識がなかったようです。神には偏見はありません。イエスが約束されたように、私たちの背景に関わらず、恵みによってすべての人がイエスのもとに迎え入れられます。

この「偉大な信仰」を持つ二人には、共通点が3つあります。

（1）二人は、胸が張り裂けるような窮状に陥り、絶望の淵からイエスのもとに来ました。子供たちの命が危険にさらされていたため、二人は真摯に、そして強い意志を持ってイエスのもとに来ました。特にこの朗読箇所の女性は、イエスの「ノー」という答えを決して受け入れませんでした。イエスは彼女の偉大な信仰を愛し、彼女からその信仰を引き出すことを喜びとされました。それは、私たちを含む弟子たちが、イエスを信頼することの真の意味を鮮やかに示すためでした。

（2）二人はイエスの恵みによって、自分たちにはふさわしくないものが与えられると信じていました。今日の聖書箇所では、ある女性がイエスの恵みへの信仰を表明した箇所を見てください。

（3）彼らはイエスの力と権威を信じていました。イエスがただ言葉を発するだけで、彼らの願いは叶えられると。この女性がこの信仰を聖書のどこで表現したかを見てください。

イエスがただ言葉を発するだけで、遠く離れた二人の子供たちを癒したのは偶然ではありません。状況に関わらず、イエスの絶対的な権威、そしてそれゆえイエスの言葉を信じるからこそ、偉大な信仰の真髄なのです...とイエスは言います。

応用：

この女性の娘を癒す際に、イエスは「**あなたの信仰に従って、あなたにこう命じる**」と繰り返しました。イエスの宣教活動において、遠くから、ただ一言で悪霊を追い出したのは、この時だけです。これは私たち皆にとって、なんと大きな教訓なのでしょう。

この女性は、娘の悪霊を一人でどうにかするのは全く不可能でした。状況は一見不可能に思えました。しかし彼女は、もしイエスが娘に願い続ければ、癒しを与えてくださると信じていました。イエスは彼女の信仰を試されました。彼女が諦めなかったことで、イエスの心は揺るぎなくなり、喜びました。私たちもまさにそのような信仰を持つ必要があります。私たちは彼女よりもはるかに多くのイエスとその戒めと約束の知識を持っており、それが私たちの信仰を強め、導いてくれるのです。

信仰とは、状況に関わらず、神が私たちの中で働く力があると信じ続けることです。

今日、あなたの信仰のどの側面において、神を求める粘り強さを倍増させる必要があるでしょうか。